

<株式会社エフエム東京 第388回放送番組審議会>

1. 開催年月日:平成 24 年 5 月 8 日(火)
2. 開催場所 :エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席:委員総数 7 名(社外7名 社内 0 名)

◇出席委員(6 名)

青 池 慎 一 委員長	横森美奈子 副委員長
渡 辺 貞 夫 委員	内 館 牧 子 委員
西 田 善 太 委員	秋 元 康 委員

◇欠席委員(1 名)

香 山 リ カ 委員

◇社側出席者(11 名)

富木田 代表取締役社長
唐 島 専務取締役
黒 坂 常務取締役
石 井 常務取締役
平 取締役営業局長
藤 取締役マルチメディア放送事業本部長
長 澤 常勤監査役
小 林 執行役員編成制作局長
延 江 編成制作局局次長 兼 番組制作部長
森 田 編成制作局局次長 兼 編成部長
平 岡 編成制作局番組制作部プロデューサー(オブザーバー)

◇社側欠席者(0 名)

【事務担当 小林放送番組審議会事務局長】

4. 議題: 番組試聴 (約 20 分)

『SCHOOL OF LOCK!』

2012 年 3 月 8 日(木) 22:00~23:55

パーソナリティ : とーやま校長、やしろ教頭

《議事内容》

議題1:最近の活動について

◎「東京タワー送信アンテナの頂上部への新設、および増強について

当社のFM送信アンテナは、1970年の開局以来、東京タワーの地上高180m～220mに設置され、当社、NHK FM、J-WAVEの3社共建で運営されておりました。当社、現状のFM送信アンテナの仕様は以下の通りです。



⇒現在の当社アンテナ

送信出力	: 10 kW
最大実効輻射電力	: 44.1kW (平均 18kW)
送信アンテナ高	: 180～220m (地上高)

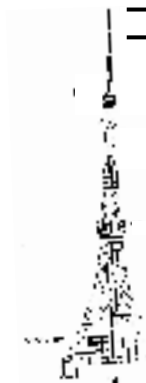
＜新設・増強後の当社アンテナ＞

当社は2013年1月、東京タワー頂上部に送信アンテナを新たに設置し、当該新アンテナからの送信開始を予定しております。

現在、頂上部にはNHKアナログTVアンテナ(1ch、3ch)が設置されていますが、2011年7月の地デジ移行により運用は終了しており、当社はこの旧NHK TVアンテナを取り外して新設することになります。

このアンテナ更新により、当社送信アンテナは、地上高308m～333mとなり、さらに最大実効輻射電力120kW(現行44.1kWの約3倍)で送信することを目指し、総務省と細部を調整中です。

これにより、放送エリアにおける受信感度の大幅な改善を実現いたします。



⇒移設後の当社アンテナ

送信出力	: 10 kW
最大実効輻射電力	: 120kW (調整中)
送信アンテナ高	: 308～333m (地上高)

当社アンテナ更新をめぐり、当初の計画においては、東京タワー、NHK との交渉において、まず NHK アナログ TV アンテナをそのまま当社が譲り受け、当該アンテナを一定期間当社が FM 送信アンテナとして使用するスケジュールが成立し、2012 年 1 月から上記新仕様で送信を開始する予定でした。しかしながら、2011 年 3 月の東日本大震災発生により、東京タワー頂上部の屈曲および NHK アンテナの破損により、当初計画は変更せざるをえないこととなり、アンテナ更新は当初計画からは 1 年遅れて実行することとしました。

<本アンテナ更新により大きく改善される点>

- アンテナ高度が地上高 180m～220m から地上高 308m～333m へ高くなること、さらにアンテナから発射される実質的な電波の強さである最大実効輻射電力が 44.1kW から目標通り 120kW に増強されれば、首都圏における受信感度は格段にクオリティーアップします。（最大実効輻射電力 120kW への増力については、現在、総務省と細部調整中です）
- 実効輻射電力の大きい電波は、特にビル、マンション等コンクリート壁内部の受信において能力を発揮するため、室内聴取が、より明瞭なものとなります。

なお、4 月 23 日東京スカイツリーより本放送を開始した NHK FM、J-WAVE の送信仕様は、以下の通り。

送信出力	:	7kW
最大実効輻射電力	:	60kW (平均 25kW)
送信アンテナ高	:	540m (地上高)

アンテナ高については、東京スカイツリーの方が高くなりますが、実効輻射電力については、平均値において当社が強くなるため、放送エリアに特段の差異はなく、室内聴取においては、当社が有利な状態となります。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○工事に際して、震災の影響があったと聞いているが？

■2012 年初旬に新アンテナの稼働を開始する予定だったが、震災で東京タワー

の上部が曲がり、工事の計画が 1 年遅れてしまった。2013 年の初旬から新アンテナでの放送をスタートできるよう進めている。

○スカイツリーの方が送信出力は小さいことに、何か理由はあるのか？

■総務省と取り決めた、問題のない出力とのこと。

○NHK のアナログ波アンテナと、TOKYO FM の新アンテナは同じ高さか？

■NHK のアナログ波アンテナがあった場所と同じ高さです。

議題2:番組試聴 (約 20 分)

【番組名】『SCHOOL OF LOCK!』

パーソナリティ：とーやま校長、やしろ教頭

【放送日時】 2012年3月8日(木) 22:00～23:55

【番組概要】

2012年3月3日(土)。福島県南相馬市原町にて、東日本大震災によって離れ離れになってしまった福島県立原町高等学校の3年生たちを集め、一緒に新たな門出を祝う“卒業式”、「SCHOOL OF LOCK!×高橋優『もうひとつの卒業式 ～福島県南相馬～』」を開催しました。

当日は、シンガーソングライターの高橋優が登場。スクール・オブ・ロック!のリスナーたちのメッセージを元に制作した楽曲『卒業』など6曲を披露し、未来を担う卒業生へエールを送り、そのライブの様態も含め、3月8日(木)に『SCHOOL OF LOCK!』でオンエアしました。

本企画のキッカケは、昨年、2011年3月に遡ります。

高橋優を迎え、様々な理由で卒業式に出られなかった生徒たちを招待する卒業生限定のライブ企画(「SCHOOL OF LOCK!と高橋優の卒業ライブ」。)が、震災の影響により中止となった事に端を発します。

なんらかの理由で卒業式に参加出来なかった生徒たちのために、「もうひとつの卒業式」を開催したい、という途切れたままの想いが残る中、番組宛てにリスナーから、あるメッセージが届きました。

そのメッセージの送り主は、福島県南相馬市の原町高校の生徒達でした。彼らは、大震災に伴う福島第一原発事故後、本校に登校することが許可されなくなり、県内外への転校や振替登校によって全国各地へばらばらになってしまいました。そんな彼らの願いは、「本来一緒に原町高校で卒業式をむかえるはずだった仲間たちと、卒業式をやりたい」ということ。そんな彼らの願いと、途切れてしまった番組の想いがマッチングし、南相馬の原町にて行ったのが、この『もうひとつの卒業式』です。

原町高校の生徒から『SCHOOL OF LOCK!』に寄せられたメッセージをきっかけに番組と生徒のコミュニケーションがはじまり、放送でもパーソナリティと生徒が直接会話をしながら番組と生徒が協力し、実現しました。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

■本番組は、第49回ギャラクシー賞ラジオ部門に入賞しました。尚、ギャラクシー賞ラジオ部門の大賞、優秀賞3本、選奨4本は、この『SCHOOL OF LOCK!』を含む入賞8番組の中から、6月4日(月)の贈賞式において発表される予定です。

○素晴らしい番組。生徒達は、震災を経てばらばらになったというより、震災を超えて結びつきが強くなった、と感じた。

○学生さんのスピーチが秀逸。声が澄んでいて言葉選びもしっかりしていた。彼女から出た「時間を共有したい」という言葉に共感した。

○シンガーソングライター高橋優の『卒業』をはじめ聞いて、その歌詞に「やるな」と思った。言葉が吟味されつくしている。『卒業』は使い古された陳腐な言葉だが、それを凌駕するほどの歌詞のクリエイティビティに驚いた。

○『SCHOOL OF LOCK!』は学校そのものだ、今回のようにベタなど真ん中優等生の顔も持つ。ときに真面目にもなれるのが本当の遊び人で、この番組がそれならば、永遠に続けるべき価値のある番組である。

○これぞラジオ、という大好きな番組だ。感動した。

一人のクリエイターとして日ごろ、ラジオは「種から育てる」もので、テレビは「実がなっただころで持ってくる」ものである、と感じている。今回の、『SCHOOL OF LOCK!』は何もしていない、手伝っただけ、という立ち位置が素晴らしい。まさに、種から育てて制作されていることがよくわかった。

○被災地支援活動において常に、「他にも多数ある被災した町の中でなぜその場所を選んだのか？」という疑問にどうこたえるか、を課題に感じており、解決方法を探したい。

○震災前、原町を訪れたことがある。その際、原町の人々が代々、先祖の遺影を飾り大切にしている様子を見た。原町には、知らない顔の先祖の遺影を見て「この人たちがいるから今の自分たちがいる」と、先祖に感謝するやさしいカルチャーがある。それを見ていたからこそ、原町高校のOB、OGの声、先輩の声がほしかった。原町の子どもたちと学校はずっとつながっているのだから、たとえ震災があっても来年もその次の世代へも変わらずにつなげていく、という展開が良かった。

○当日来られなかった元原町高校の生徒がこのラジオを聴いて問い合わせしてきた、ということはあるのか？

■元原町高校の生徒からの問い合わせは複数あり、当日手渡していた「もうひとつの卒業証書」を郵送した。

○番組試聴の頭のギター音に驚いた。今回の番組内容とミスマッチだった。

■冒頭のギター音は、『SCHOOL OF LOCK！』通常のオープニング音だが、放送番組審議会の試聴 CD では時間も短いのでカットしてもよいかもしれない。

○学校の生徒が絆を確認する、ということなら、全員が知っている「校歌」をみんなで歌うという一幕があるべき。

■試聴 CD には入っていないが、全員で校歌を合唱するプログラムも組んでいた。

○本番組はどれも悪くないのに、なぜか感動できなかった。予定調和で、破綻がないことかその理由かもしれない。ただし、ピュアな気持ちで聴いている高校生たちが感激するなら、それでよい。

○(破綻がない、という、他委員の指摘に対して)大変よくできた予定調和なので、評価に値する。しかし、このパターンは飽きがくるので、次のステップは、何かを壊す演出を期待したい。「もうひとつの卒業式」というタイトルも損。欲を言えば、『SCHOOL OF LOCK！』が卒業式をやったら・・・というよう、優等生ではない“やんちゃさ”も欲しい。

○昨年、自身の関わる大学院の卒業式が中止になり、ぽっかり穴があいたような感情になった。式の意味、大切さを実感した。これを、今回の企画で若者に伝えられていたら良いと思う。

○3月審議会で試聴した山下達郎さんの番組と同様、レギュラー番組でこういった特別なストーリーに対応できることが素晴らしい。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「JOGLIS RUN GIRLS SUNDAY」
5月27日(日)5:00～7:00 放送
- ② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会を、6月5日(火)に開催することを決めた。